

東中だより



No. 5

文責：高橋 泰

みどりの学校を終えて ～楽・笑・祭 東中防衛隊ファイヤー～

5月20日(土)から5月22日(月)の3日間、2年生176名が参加しみどりの学校に行ってきました。みどりの学校は1975年、碧南の子どもたちに山の自然を体験する場を提供したいとの市の願いからスタートしました。以来42年間、愛知県民の森の地で行ってきました。しかし、昨年、クマやキツネが出没して生徒の安全が危ぶまれました。そこで、今年から旭高原少年自然の家に場所を移して行うことになりました。東中学校が、碧南市全体の先陣をきることとなります。70周年を終え、東中学校の新たな歴史を築くこの年に、新たな「みどりの学校」のスタートを切る、これも運命を感じます。新たな可能性を求めて、果敢にチャレンジする活動になりました。

今年のテーマは「楽・笑・祭～東中防衛隊ファイヤー～」。2年生はこれまで実行委員を中心に十分な準備を重ねてきました。欲張りすぎたと感じるほど豊富なメニューに取り組みました。3日間好天に恵まれ、みんなが互いに思いやり一丸となって取り組みました。計画したことは全部やりきり、全員で楽しめたみどりの学校になりました。実行委員を中心に全員で知恵を絞りあつたみどりの学校。笑顔と自信に満ちた表情が印象的でした。



一日目 (5月20日)

初めての旭高原に到着。標高約600mとはいえ、暑さを感じるほどの好天です。ホーホケキョ。この時期にしては上手なウグイスの鳴き声が山間に響きます。碧南にはない山の自然の中での3日間のスタートです。

入村式を終え、最初の体験活動として、シルバースプーン作りに挑戦しました。小枝を10cmほどに切り、穴を開けてスプーンを差し込みます。枝はナイフで削ったり磨いたりしてデザインしました。

続いて初めての飯盒炊さん。火起こし、野菜切り、炊きぐあい。どれもこれも初体験で四苦八苦。私(校長)の班は思いのほか出来上がりは良かったようで、とてもおいしくいただきました。



ご飯もカレーも水が多かったようで、中には柔ら

かいご飯にスープカレーといった班もいくつかあつたようでした。

食後は、待ちに待ったキャンプファイヤー。今年は「火の神」降臨。希望の火、仲間の火、絆の火、笑顔の火、挑戦の火。5つの火をいただき、みんなではじけるショータイムが始まりました。実行委員の名司会ぶりはみごとで、それに応えるような各クラスのスタンツも楽しくわかりやすいものでした。楽しんで盛り上ろうとする周りの生徒も、愛と友情に溢れていました。ファイナーは火



の舞です。長い間、練習を重ねてきた火の舞の素晴らしい演技を披露してくれました。弧を描く火の残像は見る者の心に感動を与えてくれました。ファイヤー最後の火文字は「永友」。文字を見つめるみんなの目は優しく光っていました。

二日目 (5月21日)

爽やかな山の朝。朝食は食堂での食事。今までのキャンプとは異なり、調理されたものをいただくため、全員が30分ほどで食事をとることができました。

続いて行ったハイキング。樹木オリエンテーリング用のコースを利用した3kmほどの山道でした。鳥のさえずり、小動物や草花があり、自然の中を満喫できました。アップダウンも多く、適度な疲れも感じました。



昼食は2度目の炊飯活動となるバーベキュー。炭火、鉄板を囲んで、余るほどの肉と野菜を食べ、仕上げは焼きそばでした。朝食が肉のないあっさりしたものだっただけに、ガッツリといただきました。

昼食後は体育館レク「小野田リンピック」。大縄跳び、玉入れ、障害物競争で楽しみました。2



年生お馴染みの小野田杯争奪 E☆1 チャレンジの1つで、体育館中に元気な声が響きわたりました。

入浴、食堂での夕食を終え、みどりの学校を締めくくる、メモリアルナイト。全員が講堂に集まり、仲間や家族への感謝の想いを確認しました。2人から体験発表があり、雰囲気高まる中、一人ひとりのキャンドルに火が灯されました。そして、灯を見つめながら、

今の自分、これからの自分を見つめる機会としました。その後、各学級に分かれて家族への感謝の想いを見つめ直す時間としました。担任が家族への想いを語りました。そして、各個人に宛てられた家族からの手紙を読んだ後、家族への手紙をしたためました。手紙を読む中、涙する生徒をたくさん見かけました。保護者の皆さま、お手紙ありがとうございました。



三日目 (5月22日)

3日めも素晴らしい天気になりました。最終日の昼食は、3度目の炊飯活動でセレクト炊事としました。ピザ、カレーうどん、焼きそば、豚汁の中から選びます。ピザづくりではドラム缶の釜を使って焼きました。上手にふっくらと、とても上手に焼きあがりました。カレーうどんもとても好評でした。



退所式。すべてのイベントを終え、施設の方に感謝の想いを伝えました。3日間好天に恵まれ、実行委員の企画通りにやりきることができました。どの生徒の表情にも成就感、満足感が感じられます。旭高原少年自然の家の職員の皆さん、ありがとうございました。

みんな元気に3日間を過ごせたこと、仲間との繋がりを深められたこと、たくさんの思い出を胸に、みどりの学校を閉じました。

みんなの笑顔が支えになりました 四元由結 (2-5)

私は、このみどりの学校を通じてたくさんのご経験するうちに、大切なことに気づくことができました。みどりの学校前は、班の子とうまく生活できるか不安でいっぱいでした。でも、みんな優しく、そして、何よりいつも笑顔で頼りになりました。みんなと過ごしていくうちに、クラスの人々に対する尊敬の気持ちが大きくなっていきました。今までの生活の中で、自分が笑顔で過ごせているのは、先生やみんなのおかげなんだと気づくこ

とことができました。

これまで私を支えてくれていた人たちに笑顔を送りたい!! そう思いついた時は、みどりの学校ラスト1日でした。何故もっと早く気がつかなかったんだと、心の中で絶句しましたが、これからの生活で返していくしかないかと決意を新たにしました。

これからの生活の中で、笑顔をみんなに返し続けられるように、室長として、一生徒として頑張っていきます。